

答 辞

寒さも緩み、柔らかな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために、このように盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、並びに喜納学長をはじめ諸先生方に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

私たちが入学した 2022 年は、新型コロナウイルスが流行し、入学式も新生のみの参加となり、活動に一部制限がある中で大学生活が始まりました。そこから半年間は、オンライン授業が中心でしたが、後期からほとんどが対面形式となり、実際に先生方のもとで友人と共に学ぶことができる喜びや、環境への有難さを感じました。全国さらには世界各地から集まった学生たち、そして多くの先生方や職員の皆様との出会いを通じて、私たちは視野を広げ、新たな価値観を得ることができました。

琉球大学での学びは実に多岐にわたるものでしたが、私にとって特に印象に残っていることは、卒業研究です。専門分野である心理学プログラムで、興味があるテーマを自ら選択し、問いや仮説を立て、試行錯誤を重ねながら研究に取り組みました。人の心理について自ら立てた、答えの分からない問いに関して、捉え方は様々であり、分からないことに向き合うということは困難もありました。しかし、先行研究などから得た情報を元に、科学的な根拠をもって、先生方や友人たちと議論し、論理的に物事を考えていくことの大切さに気付く

ことができました。この経験を通して、答えのない問いについて考えることの難しさと同時に、多くの情報からより客観的に考えを見出すことのできる楽しさを感じました。

これから私たちは、新しい環境で、それぞれの道を歩み始めます。その中には、情報があふれ、答えの分からないことが沢山あると思います。しかし、本学で培った経験を活かし、正しい情報は何かを主体的に考え、地域や社会に貢献できるよう、挑戦を止めることなく、成長し続けていきたいと考えています。

本学での4年間を通し、様々な知識を得て視野が広がる中で、私たちは日々、多くの人たちに支えられながら大学生活を送っていることを実感しました。ご指導くださった諸先生方、勉学に励む環境を整えてくださった大学職員の皆様に心より御礼申し上げます。また、ともに学び、支え合った友人たち、そしてこれまであたたかく見守り育ててくれた家族に、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、本日はやむを得ず会場で参加することの難しかった卒業生の皆様と共に、卒業生代表として、皆様のさらなるご活躍と、琉球大学の一層の発展を心よりお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和八年三月二十四日

卒業生代表

人文社会学部人間社会学科心理学プログラム

我喜屋 亜優